

# てのひら

天野順一郎

【登場人物】

男

男 水、出っぱなし、お母さんからね。

男 うん。

女 いつ籍を入れるんだって。

男 籍？

女 君に結婚する気がないなら、理恵も少し考えなさいよって。

男 ああ。

女 うん。

男、荷物を置く。

二人は口論する際に、テーブルをバンバン叩く癖がある。舞台にはテーブル、シンクがあり、テーブル中央をビデオカメラが写している。ビデオカメラの映像が、ステージ背後のスクリーンに映し出されている。照明は暗く、テーブルにサスがあたりついている。二人の姿はスクリーンの映像と、机のサスから漏れる明かりで、微かに影のみが確認できる程度である。

男 来週ね、

女 何？

男 現地で集会があつてね。

女 ……

男 ボランティアで避難所回つて、

女 ボランティア。

男 何？

女 別に。

声とともに男の影も浮かび上がる。

男 ……先の震災で失われたのは多くの人々の命！平穏な日常！それだけじゃない！原発事故による、安全神話もまた、木っ端微塵に打ち砕かれたのです！安全だ、心配ない、そう言われ続け、そしてその言葉を信じた我々は、今や放射能の脅威に晒され、日々、不安と不審に苛まれながら過ごしているのです。私は愛知の人間です。震災の当事者でなく、経験していません。私にそう言われる方もいます。しかし、私自身は当事者であると思っかこそ、こうして声を上げているのです！いざれ必ず愛知でも大きな地震が発生すると言われています。だからこそ当事者としての意識を持ち、声を上げているのです！あの未曾有の災害は、過去の出来事ではありません。現在進行形であり、そしていつか起こりうる未来への教訓なのです。核のない日本に！未来の子どもたちのために、日本からすべての核をなくさなければなりません！もう、核はいらない！核は出て行け！核は悪だ！

女は未だに水道の前に立ち尽くしている。

男 ただいま。

返事はない。

男 ただいま。

返事はない。

女 ……言ったよ？

男 何が？

女 言いたいこと。言った、私。

男 いつ？

間。

男 何？

女 なんでもない。

男 言いたいことあるならいいなよ。

女 言いたいこと？

男 言えよ。水道代、勿体無い。

女、キュッキュツと水を止め、食卓につく。

男も座る。

しばらく見つめ合う二人。

女 今までずっと言ってきた。

男 今は今までの話じゃないだろ？言えよ、今言いたいことを。

女 一緒だよ。何よ、ボランティア。

男 は？

女 働いてよ。

男 働いてるじゃん。

女 お金稼いでよ。

男 バイトしてるじゃん。

女 それ、全部週末のよくわかんない集会とかボランティア行くのに使っちゃうでしょ？

男 え、なんなの？

女 さつきも水蓮代勿体無いって、誰が払ってると思ってる？

男 ……。

女 ……この家賃もそう。私が払ってる。

男 それはごめん。

女 わけわかんないボランティアとか、

男 わけわかんないって、あんまりでしょ。

女 わけわかんないし。関係ないでしょ、あなたは。

沈黙。

男 がっかりだね。

女 は？

男 同じ日本に住んで、困ったり苦しんだりしてる人のこと、ちゃんと考えてたらそんな事言えないでしょ。

女 なにそれ？

男 愛知に住んでいる以上、他人ごとじゃいられないじゃない。だからこそ、

女 論点ずれてない？

男 ずれてない。

女 ずれてるもん。お金の話をしてるの、今。

男 だから、お金ももちろん大切だけど、未来のこと考えたらもっと大切なことあるじゃん、って話。同じ日本に住んでる、

女 同じ家にすんでる人の痛みや辛さを考えられない人に、日本規模でもの事考えることなんか出来ないって言うてるの。見ず知らずの他人を救おうって気持ちには凄く理情的だけど、現実をもっと見てよ。まず知ってる人間から、まず自分の生活から。ボランティアはお金ちゃんと稼いでる人がするから美しいの。

男 別に美しさとかでやってないし。

女 お金稼ぐ能力のない人が偉そうに理想並べるのは現実逃避でしかないでしょ！

バンバン机を叩き、わっと泣き始める女。

男 (チツと舌打ちをし) ああああ、ごめん、ごめんね。

女 舌打ちした！今、舌打ちした！

男 なんだよ、なんなんだよ。

女 ひどい！最低！

男 どうしたんだよ、一体！

女、ぐすぐすと涙を拭い、

女 ……三ヶ月。

男 ……何が？

女 赤ちゃん。

男 赤ちゃん？

女 妊娠三ヶ月だって。

男 誰が？

女 私！

静寂。

男 ……そうか。

女、わっと泣く。

男 え、何よ！？

女 ひどい！最低！

男 何が！？

女 そうかって、もっと他にあるでしょ！？

男 わかんないよ！

女 どうして！？

男 突然だし！

女 言った。最近、調子悪いとか遅いとか、言った！

男 調子悪いって言われて妊娠だって、ならないでしょ、普通。

女 あなたは何も見えてない。自分の彼女が苦しいのに、外ばっか見て！

男 じゃあ結婚しよ？

女 じゃあ？

男 結婚しよう。

女 じゃあって何？じゃあって

男 別に意味なんてないよ。

女 意味ないのに結婚しようっていうんだ。信じらんない。

男 別に結婚に意味が無いなんて言っていないか！じゃあに意味がないの、じゃあに！

女 もついい！

沈黙。

男 ……ごめん。

女 いい。知らない。

男 俺たちもつ二年じゃない。

女 そうですね。

男 結婚しようよ、もう。

問。

男、ボリボリと頭をかく。

女 ……もう？

男 いや、

女 もつとかじゃあとか、なんなの！？

男 イチイチ揚げ足取るようなこと言いなよ

女 揚げ足取りはあなたの得意分野でしょ？

男 は？

女 大きな災害起きた途端に、安全神話だの騙された裏切られたって

男 それは関係ないだろ。

女 震災の前なんだっけ？

男 え？

女 イラク戦争反対！でしょ！？

男 なんだよ、いきなり。

女 一貫性がないって言ってるの！あなたはただ反対反対出て行け出て行けって騒ぎたいだけ！

男 いい加減にしろよ！

女 もう戦争はないの？

男 イラク戦争は終結してる。

女 まだやってるでしょ？ニュースでやらないだけで！

男 それは、小さな紛争で、今は日本が、

女 紛争と戦争とどう違うの？人が死ぬでしょ？

男 アメリカも終戦宣言したでしょ！？フセインも死んだでしょ！？

女 その前のアフガニスタンは？

男 その時はまだやってないじゃん、こういう活動してないじゃん！

女 じゃあ関係ないの！？

男 関係なくないけど！

女 原発は？震災は？過去の出来事！？

男 それは現在進行形でしょ！？報道されないけど、苦しんでる人たちが、

女 もつ、何を信じていいのかわかんない！

男 どうして！？

女 なになに新聞はウソツキだ！ネットの情報ではこうだ！政府にダメされるな！アメリカが言ってる！もうんざり！

男 俺は真実を言ってる！

女 あなたは自分の都合のいいことだけを鵜呑みにして、都合がわるいことは嘘だの陰謀なので否定してるだけ！

男 ちよつと、

女 災害はファクションじゃないの！戦争は流行じやないの！ミーハーな主張を振り上げてないで、もつと自分の足

元見てよ！

男 なんなんだよ、もつ！

女 交通事故の電光掲示板と一緒

男 はあ？

女 警察署の前にあるじやない。今年の事故件数、何件。今年の死亡者数、何人って書いてあつても、大晦日超えて

次の年になつたらどつちもリセットされるの。

男 当たり前でしょ？年が変わつたんだから！

女 年が変わつたらなかつたことになるの？死んじやつた人も、その家族も、全部リセットできるの？気持ちもリセ

ットすんの！？

男 ちよつと、落ち着けよ！

女 落ち着けないわよ！

男 お腹の子に負担がかかるだろ！ちよつとは考えろよ！赤ちゃんいるんだぞ！

女 ……お腹の子。

男 お腹の子のこと、もつとちやんと考えろよ。

女 私の事、考えてよ。

男 考えてるよ！繋がってる！

女 今まで放つとして、子供出来たらお腹の子のコト考えろって、あなた私の事考えてくれたことない！

男 つながってるでしょ！赤ちゃん心配ってことは君が心配なんだから！

女 取つてつたようなこと言わないでよ！

男 繋がってる！へその緒で繋がってる！だ、もう落ち着こう！水飲もう！

男、水道から水を汲み、女の前に置く。

背景のスクリーンに水の入ったコップが映し出される。

女、両手で顔を覆っている。

女 ……墮ろそうと思ってるの。

静寂。

男 どうして？

女 ……どうして？

男 俺の様子が少ないから？

女 じつと男を見つめ、首を振る。

男 じゃあ、どうして。

女、コップの水を見つめ、

女 飲んで大丈夫なの？

男 え？

女 この水道水は、飲んでも大丈夫なの？

男 大丈夫だよ。

女 汚染されてないの？

男 なんてこというの！

女 だってわかんないじゃない。

男 大丈夫だよ。大丈夫じゃなきゃ、

女 報道される？

沈黙。

女 真実ってなに？都合悪ければ報道されないんでしょう？陰謀でしょ？あなたの大丈夫って、何を根拠にそう言うてるの？不安なの、これだから。心配なの私。

男 日本の状況が不安だから子供を産まないって言うてるの？

女首を振る。

女 そういうことじゃない。

男 心配しなくても、愛知県は事故原発からは離れてるし、

女 それこそ他人事じゃないの？ひよっとしたらもう手遅れかもしれない。

男 そういふのを風評って言うんだ。いたずらに不安になる必要もないし、

女 あなたと同じじゃない。

男 どこが？

女 あなただって憶測で喋ってる。

男 憶測じゃない。憶測じゃないよ。データに基づいて、

女 あなたが調べたの？現地で？実際に？

男 それは、無理だよ。だって立ち入り禁止の区域とか、

女 あなたの演説？スピーチ？素晴らしいこと言ってると思うよ。あれ聞いて心を動かされる人もいると思う。でも

男 さ、私には響かない。こうしましょう、こうしなければならぬ、僕はこうします、出来ないでしょ？

男 実現するために頑張ってるんじゃない！

男、机を叩くと、スクリーンに映るコップの水が揺れる。

口論でどちらかが机を叩くたびに、コップの水は揺れる。

女 無理っしょ！就活しなきゃな〜って何回言っただ、来月はちゃんと家賃払うねって何回言っただ、できてないでしょ、何も！

男 日本規模の話と俺の就活の話と並列で議論しちゃダメでしょ！

女 なんだよ！

男 スケールが違うでしょ！

女 こんな小さなスケールの事が実現できないあなたに、日本規模の目標が達成できんのかって言うてるの！

男 じゃあ払うよ！

女 じゃあ！？

男 払えるよ！ちゃんと払う！

女 あんたはスケール違うって言うけどさ、もの事に大小ないからね！？

男 は？

女 私にとっちは同じことだからね！震災も！戦争も！彼氏が無職なのも！

男 じゃあ働くよ！

女 じゃあ！？

男 とりあえず水飲めよ！

沈黙。

女はジッと男を見据えている。

男、グイッと水を飲む。

男 水！飲めよ！

男 コップを女の前に突き出す。

コップの中の水は三分の一程度に減っている。

女 私はあなたの味方でいたいし、あなたの言葉を信じてあげたい。

男 結婚しようよ。

女 三年も付き合ってるから？

男 子供も出来たし、

女 赤ちゃんを理由にして欲しくない。

男 ケジメつけないといかんでしょ、男して

女 ケジメとかで結婚決めて欲しくない。

男 あの震災のあと、考え方も変わったんだ。少し時間かかったけど、僕は君と、

女 あなたは他の何かを理由に付けないと、自分の結婚も決められないの？

男 ……

女 私は、私のことが好きだから、ずっとそばにいたいから、だから結婚しよう、そう言って欲しいの。

男 好きだから。ずっとそばにいたい。結婚しよう。

女 (机を激しく叩き) コピペじゃん！

男 (さらに激しく叩き) 机叩くなよ！

女 (叩き) あんただってそうじゃん！

男 (ひと言ずつ叩き) すきなよ！

女 どうかの議員みたいな言い方しないで！みつともない！

男 (机を叩きながら) 愛してるんだ！

沈黙。

男 今まで結婚に踏ん切りつかなかったのはごめんだし、仕事のことだって、今の活動のことだって、ごめんだよ。

女 ごめん。でも、でもね？いつか生まれてくる僕らの子供のために、素晴らしい未来をプレゼントしたいって、本

当にそう思ってやってきたんだ、今まで。核のない未来、戦争のない未来、(コップを手じ) 安全な水が飲める

未来、そんな未来をちゃんと遺してあげたいんだ。…ずっとそばにいたい。君と、子どもと手を繋いで、笑って

過こしていたんだ。

女、また泣き出す。

女 ごめんなさい。

男 いや、僕も、僕のほうが悪い。

女 不安なの。

男 ごめん、ごめんね。

女 さっきも言ったけど、あなたの味方でいたい。ずっと

男 うん。

女 あなたを信じて生きていきたいの。

男 うん。

女 だから、…結婚もしない。子供も産めない。

男 ……どうして？

女 あなたを、あなたの言葉を信じてるから。

男 だから、結婚しようよ。ずっとそう言ってるじゃない。

女 子供が出来てなかったとしても、結婚はしない。

男 だ、どうして？

女 結婚したら、この国を離れなきゃならない。

男 は？

女 あなたが言ってることじゃない。

男 言ってるないよ。ひと言も言ったことがない。

女 言ってるわよ！そう言ってる！

男 何が？

静寂。

女 結婚したら、私達

男 結婚したら？

女 私達、核家族なるのよ？

沈黙。

男 ……バツカじゃねーの！？

女 バカじゃない！

男 何いってるの！？

女 あなたが言ってることでしょ！…核はいらないって！核は出て行けって！

男 それは違うじゃない！

女 私はあなたの言葉を信じてるの。

男 信じるもないも違うじゃない！

女 鵜呑みにして生きていきたいの。

男 核家族は、核じゃないじゃない！

女 核じゃん！

男 言葉がそうっただけじゃん！

女 (机を叩き、泣きながら) 言葉が一緒なら一緒じゃん！

男 お前の方がどっかの議員みたいじゃない！

女 あなたの言葉を信じてるの！

男 核家族は放射能出さないじゃん！

女 それはどこの情報？何のデータ？

男 普通そうじゃん！核家族なんてどこにもあるじゃん！

女 原発だっけそうじゃん！

男 核家族は安全でしょ！？

女 安全神話は崩れたじゃない！

男 はああ！？

女 無責任に安全を振りかざさないで！

男 俺の言葉信じるんだろ！？

女 信じてるよ！

男 じゃあ信じろよ！今の言葉も！

女 私は安心したいの！

男 じゃあ、ちゃんと就職するから！

女 じゃあってなんなのよ！

男 じゃあはじゃあだよ！

女 ちゃんとしたデータをちょうだいよ！核家族は放射能を出さないって！

男 お前、あんまりだぞ！

女 あんたのほうがあんまりだわ！手のひら返して！

男 不謹慎だ！

女 何が不謹慎よ！

男 不謹慎じゃねーか！

女 今も苦しんでいる人がいるのに、やることやって子供こしらえたあなたの方がよっぽど不謹慎じゃねーか！

男 不謹慎じゃない！少子化に歯止めをかけたんじゃないか！

女 セックスに国の問題絡めてくるんじゃないか！

男 だって、無茶苦茶じゃん！

女 無茶苦茶よ！もう、無茶苦茶…。

顔を覆う女

男 …ごめん。

女 何に対して？

男 は？

女 何のごめんなの！？ねえ！

男 言い過ぎだからごめんなさいのごめんだよ！

女 あなた悪く無いじゃん！

男 ああ！？

女 私、超屁理屈こねてるんだから！

問。

男 自覚あるんじゃないか！

女 言葉尻捉えて、揚げ足取って、自分の信じるものを盲信して！無茶苦茶…！核家族が放射能出すわけ無いじゃん。

でも、不安。都合のいいところばかり、お互いに都合のいいように解釈してるだけじゃないかって、怖い。

私。

静寂。

男 …実家に帰ろう。

女 …いつ？

男 結婚してから。

女 …どうして。

男 そうしたら二世帯家族だから。核じゃないから。だから、頼むよ。結婚しようよ。

女 あなたの実家に住むの？

男 いや、君の実家でもいいけど。

見つめ合い、女、すっと立ち上がる。

彼女は冷蔵庫をあけ、ミネラルウォーターを取り出し飲む。

男 お前がいなきや、ダメだから。

女、お腹に手を当て、

女 …ごめんね。

男 いいよ、もつ。

女 (お腹を見て) ごめんね。お母さんとお父さん、無茶苦茶だよ。

男グイッと残りの水を飲み干すと、女に近づき、お腹に手のひらを当てる。

男 ごめんね。

男、電話をかける。

男 もしも？ごめん、来週の集会、ちょっと俺、いけなくなっちゃった。…本当に申し訳ない。また連絡する。はい。はい。

電話を切り、テーブルに置く。

女 凄いことだと、思うよ。

男 え？

女 大切なことだと思うし、あなたみたいな人が、本当はもっと増えなきゃいけないと思う。リセットされたわけじゃないし、今も震災は続いているんだから。

男 …君の実家に行こう。来週。

女 え、それまでに籍入れるの？

男 は、何で？

女 実家には結婚してから行くんですよ？

男 違う。…結婚と、赤ちゃんの報告に。

小さく、机を叩くような低い音が聞こえ始める。

男 結婚しようよ。

女 頷く。

男 …今の活動は、ごめん、続ける。仕事と両立しながら。

女 …そう。

男 君との時間もちゃんと作れるように、セーブする。

女 …できるかな？

男 出来る。てか、やる。

女 本当かな。

男 この日のために、今までやってきたんだ。君とこの子のために、これからも続けていく。今度は夫として、父親として。君たちを守るために、働く。君たちを守るために、叫ぶ。僕は。ずっと。

男、女を抱きしめる。

女 ごめんね。

男 ありがとう。

女 ありがとう。

男 お前、机叩くなよ。

女 あなたも。

男 いや、今。

女 だから、あなた叩いてるでしょ？

男 叩いてないよ。

女 叩いてないわよ。

男 手のひら脹れるぞ。

女 叩いてないって。

男の携帯から緊急通知音がする。

二人、テーブルを見る。

スクリーンには静かに振動するコップが写っている。

机を叩くような音が大きくなる。